



探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry Learning Team



令和4年
3月25日
(金)

No.10

〇2年目に向けて「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」

4月より「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の2年目がスタートします。3年計画で行われている本事業ですが、3年目が発表と考えると、**発表する内容は4月から行う2年目の研究**になります。夏休み明けから本格的に始動した今年度とは違い、次年度はすぐに準備を始めて、6月に予定されている運動会後にはスタートしようと考えています。

そのため、年度末・年度始めの忙しい時ではありますが、**本年度の成果と課題を今一度把握し、次年度へのイメージをもってもらうため**に通信にまとめました。ぜひご一読ください。



◎成果



①導入の工夫による課題意識の醸成

今年度、単元を開発するにあたり、最も重視したのが子どもたちと単元との出会わせ方をどうすればよいのかという点です。子どもたちが単元を「自分ごと」として捉えることができるように、何度も協議を重ねて導入時指導案を作成しました。この時点で「やらされている」という感覚をもってしまうと、単元を「自分ごと」として捉えることは難しくなり、探究的な学習ではなくなってしまいます。そこで、子どもたちが書いた地域のイメージマップを基にして、実態に合った身近な課題から入りました。さらに、こども園の先生からミッションを受けたり、学級園の獣被害を自分たちで調べたりするなど、**子どもたちがやりたくなるような、動機づけとなる導入時の工夫を行いました**。そうすることで、子どもたちは目を輝かせて課題に取り組むようになりました。導入時の単元との出会わせ方を工夫することで、疑問を抱かせたり、調べたいという意欲をもたせたりすることができたのではないかと思います。

次年度については、探究的な学習を1年経験した状態（前年と比べると、福富の地域について知っていることが増えている状態）でのスタートになります。**前年度学んだことを復習し、さらに発展させていく方向でもよいですし、発見した新たな課題に取り組んでもよい**と思います。大切なのは、子どもたちが単元を「自分ごと」として捉えることができるかどうかです。教師側がおせっかいをし過ぎないように、「子どもは有能な学び手である。」と考えて、授業を作っていきます。

②地域への思いの高まり



地域を題材とした探究課題を設定し、ただ調べるだけでなく、実際に現地に行って体験したり、地域の方々へ直接インタビューをしたりしたことで、より「自分ごと」として学ぶことができたのではないかと考えられます。地域の方々との協働することで、地域のことをもっと知りたい、課題を解決したいという思いの高まりへとつながりました。このように、**大切なのは、地域の方に語っていただいた思い・願いから、子どもたちが自ら課題を発見し解決していくことや、社会参画に向け主体的に活動していくことだ**と思います。その結果、当初の計画と変わってもオッケーです。経緯を残しておきましょう。

③異学年交流の良さ



異学年と合同で学習を進めたことで、子どもたちにとって協働性を培うよい学びの場になりました。下級生は上級生から直接教わったり、上級生の姿を見て学習したりすることができ、また、上級生は、知識や経験を基に下級生に教えたり、手本になろうとしたりすることで、リーダー性を養うことができました。異学年で互いに学び合うことができる場を意図的に設定したことで、協働性の向上へとつなげることができたと考えられます。

特に次年度は、上級生には1年間の経験があり、イニシアティブがある状態でのスタートになります。**より上級生のリーダー性を発揮できる可能性がある一方で、下級生の自由な発言が話し合いの場に出にくいケースが想定されます**。より効果の高い協働的な学びを模索していきましょう。

△課題



①分かりやすい評価規準の設定

今年度、協働性と主体性を含めたすべての項目について、ルーブリックも作成し、評価へと生かすようにしました。しかし、評価項目によっては、評価のタイミングが難しい部分があったり、異学年で行っているにもかかわらず、目指す資質能力が同じでよいのかなど、妥当性にも疑問が残ったりしました。また、具体的にどのように見取るかという部分にも課題がありました。そのほかにも、今年度は子どもたちにルーブリックの評価項目を明示していないため、指導者の見取りたい部分とずれが生じていると感じることがありました。

次年度からは、**子どもたちにルーブリックの評価項目を示して学習を進めていきたい**と考えています。ルーブリックの内容や、子どもたちへの提示のしかたについては、今後も協議を進めていきます。また、全部で11項目（10項目にするのか要検討）ある評価規準を、複数回評価するのではなく、「ここで評価しよう！」と決めた場所で**項目ごとに1回だけ評価するようにしよう**と考えています。この評価は形成的評価であり、成果と課題を次の授業に生かし、私たちの子供たちを見る目を養うことができます。どんどんブラッシュアップをしていきましょう。

②見通しがもてる小単元の設定

計画した探究的な学習は、長期に渡って継続するものです。そのため、間に学校行事が入ることがあり、何を狙っているのか曖昧になる期間がありました。**活動に切れ目をもたせるために、1次、2次というように、短い期間を連続する意識を教師側がもつことが大切**です。また学習の途中で、**地域の方との協働の場を仕組む、体験的な活動を行うなど、再度疑問や刺激を与えるような仕掛けが必要**だと考えます。

先達の言葉

成功の秘訣は、
何よりもまず、
準備すること。

ヘンリー・フォード(フォード・モーター創業者)

4月からは、研究発表のメイン内容になる2年目がスタートします。そして、その2年目を成功させるためには、この年度末・年度始めの準備が大切だと言えるかもしれません。もう一度内容を振り返り、どの学年になっても大丈夫な準備をしておきましょう！